



人生の方向指示器

寺田留雄

吾が少年の頃を省みると、征戦だ！神の国だ不敗日本だ！と教えられてその気になり、国家の為にと敵艦に本気で体当たり出来てる訳だったのが、気付いて見ると、古来稀ナリと言われる齢を通過している。こんな訳では無かったのにと想うことも有ったけれど・・・。

そんな所へ新聞記事で小町を知り訪問してよかった。所在地の環境は至極好くて教室に居る人達は各業・各職を勤め上げた其の道の達人ばかり。油売りの講義、口上演技を真面目に受講している。先生方の一挙手一投足を瞬きもせず其の全部を吸収しようとする姿勢には威圧感さえ覚えた。これは偉い所へ来たもんだ。一緒に付いて行くには古希を返上して若返った気持ちになったとしても、ボケは受け取って貰えない。

八郷の北向観音様の祭礼の時に、小町教室の一同で参詣学習をさせて頂いた上に甘酒を御馳走になって帰った事があったけど、其の参道と言うのか、野道の両側の所々に立ててある行灯の一つの面に宇野先生がアジサイの一輪を

画いて上部の余白の所へ一句

『余生とは 言うまい今日も 新しい』と墨書してある。数多くの絵や詩句を行灯の四面に貼り付けた中の一つだけだ、あの句は私の方向指示器のようだ、大変気に入って、大事に胸に仕舞って置いてある。困ったときの神頼み、弱気の時には神様に頼りたくなるのだけれど普段が不信心である私がお願いしても、神様は相手にもして呉れない。其の神様のお住居？と言うものを不肖の私が拵えている。いわゆる一間社、流れ造りの型式。その小さなものである。

昔は読み書きすることがなく皆、口伝で一子相伝とか言葉が残っている位に技術を伝えるのに大変だったろうけれど、今は望めば高度な関係本でも見付けられるようです。そして本に記されている木割法に従って私見を交える事無く忠実に其の寸法に拠っていけば、材料の良し悪し手際の善し悪しは関係なく参詣人の絶えない社の様なバランスのとれた形の良いのが出来るから不思議です。工作人の私も我ながら不敬にならざらむと愕く次第です。

其の社を祭祀する場所はどここの屋敷でも北東いわゆる丑寅の方角が断然多い。何故かな？と思う。昔の中国政府がモンゴルの敏捷で騎馬得意な団体におびやかされるので侵略を押しさえる意味で守り神を配置奉ったのが、モンゴル方角即ち丑寅だと云う。我が国では其れを真似？して京都御所に於いては比叡山延暦寺、江戸では上野寛永寺、その延長線上に筑波山。中禅寺には寺領五百石を与えてであると小町の館

での教室で教わってあります。でも。日本は細長い国なので、関西も東北も同じ方角では可笑しい落ちつかない気持ちがある。このふんではカナダやアラスカあたりが編国？とナルカナ。舞台の上で「責任者出て来い！」と云って口角泡を飛ばしながら笑わしていた夫婦漫才の一组が居たけれど。本当に其の気持ちになれそうない気がする。

（この事はかりが新橋（心配）で

誰に悩みを有楽町

思った私が素頓狂（東京）

何だ神田の行き違い

彼女は疾うに秋葉原

本当に可笑し（御徒町）な事はかり

山手は花咲く恋でした

痴楽師匠独自山手線の一節ですが、宇津木さん元木さん有り難う。私のボケの遅延に役立ちます。

以上 賞味期限が切れそうな私の人生、小町の皆様にも、防御の手だてになりそうな御助言と御指南をお願い申し上げて終わります。



昔々、坂東の里に筑波のお山というのがあった。その筑波のお山のとっぺんで親の風と子どもの風が楽しく遊んでいた。親風は子どもをおんぶして、ふんわりふんわり坂東の里を遊覧飛行。

やがて、人間の世界と同じく風の世界でも、成長するにつれて子どもが親に反抗するようになった。子猫がじゃれるように、子風は親風のしっぽに噛み付いてゆく。親風は面倒くさそうに、歯を剥きだして追い払う。しかし、日ごとに暮るうるささに、親風は思いきり、子風を叱り飛ばした。

それからというもの、いじけた子風は八郷盆地というところで、たった一人、レンゲソウやタンポポと戯れるようになった。頑固な親風は霞ヶ浦という所でタニシやワカサギの面倒を見るようになった。こうして、筑波のお山をはさんで親子の断絶が始まったと言うわけだ。

さて、幾年か過ぎたある年の正月、親風が筑波のお山へお参りに行くと、山の神様がこんなことを言うた。

「わしは、お前達親子のいさかいを、ズーっと見ている。だが、湯飲みの中の茶柱をいくら向こう側に吹いても無駄なこと。却って湯を波立たせるがオチじゃ。茶柱も毒ではないのだから、そう煙たがらずに、お湯と

おやこ風

みやもと しろ

文化放送創作童話 『ままお話聞かせて』より

一緒に飲み込んではどうじゃな？」
親風は子風を茶柱になぞらえて、優しく諭してくれた神様に感謝した。

そこで、その帰りに親風は、八郷盆地に降り立って、さっそく子風に会いに行った。「おお！ずいぶん会わんうちに大きくなったなあー」子風も久しぶりに親風と会い、今までのことはすっかり忘れたように、うれしそうに顔を赤らせた。「そうだ。どれだけ僕が成長したか父さんに見せてやる。父さん、僕と競争しないか？」

親風と子風は坂東太郎の川筋を遡り、ずっと向こうのキラキラ輝いている山の頂に向かって、駆け足をすることにした。葎や枯れ草の上を滑るように、二つの風は抜きつ抜かれつまっしぐら。川面に汗のしずくを振りまきながら、親風も子風も一生懸命駆け抜けた。でも、そこはやっぱり親の貫禄。子風より半日早く山の頂に辿り着いた。やがて、子風も息を切らして親風の胸の中に飛び込んできた。「ふうー。やっぱり、父さんには敵わないや！」子風は尊敬の眼差しで親風を見あげ、親風は前よりしつかりと息子を胸に抱きしめた。

親子風は二人してアルプスの山々を飛びまわり、親子の幸せを味わったが、

歳とった親風は疲れがどつと出て、坂東の里には帰れなくなってしまった。振り向き、また振り向き、一人で坂東に戻った子風は、春にはそよ風となり、秋には木枯らしとなって、親風の方まで立派に働くようになった。それを親風はアルプスから目を細めて見守っていた。

そして、正月の頃になると、筑波おろしと名を変えて、そつと会いに行ったという。筑波おろしは坂東の里にフーツと息を吹きかけては、田んぼも山も緑に変えてからアルプスのねぐらに帰っていくのだ。

今では、この風の物語を誰も語ることはない。『子どもは風の子』と言う言葉はこの頃より言い伝えられてきたといわれる。そして、筑波のお山には遠い昔、親子の風が言い争った『風返峠』という美しい峠が、今尚残っている。

宮本さんはファンタジックなたくさんの童話を投稿・採用されています。

無理をお願いしてこれからも何作か御紹介したいと思います。岸田今日子さんの語りによる放送はほのぼのとして本当に素敵です。

お知らせコーナー

恒例 がま口上講座 (無料)

開催日: ①9/18(日) ②10/1(土) ③10/15(土)
④10/23(日) ⑤11/12(土)

時間: 午前10:00~正午

場所: 小町の館

* ①, ④は総会時の予定から変更になりますので、御注意ください。

第2回 会員練習会

7/30(土) 場所・時間は同上

第3回~第7回は講座と兼ねて行います。

各種催事予定

○第57回筑波山ガマ祭り

8月7日(日)11時~ 各3~4回実演
御幸ヶ原周辺・つつじヶ丘周辺の2ヶ所

○霞ヶ浦環境科学センターまつり

8月20日(土)

○玉里村「魔神祭」8月28日(日)午後から
大宮神社境内(玉里村役場向かい)

○茨城県フラワーパーク開園20周年記念
10月9日(日)

私の家族

淀縄 光子

梅雨とは、名のみが猛暑が続いていますので、今日は年賀状で私の家族を紹介します。笑って、少しでも涼しくなっただけならば、幸いです。

・コケッココー ああ6度目の年男 夫

・健康タス趣味ワル 365

本年も同じ計算式?

・老兵は死ねず年金にしがみつ

マッカーサーは偉大・はずかしながら・・

・どんな優勝でもチョー キモチイ

流行語であいさつ・・

・孫ひとり増えて名前が出てこない

二男の第二子「夏葉」と命名「夏羽」が正当

・県央へ舞台掲げてボランティア

水戸へ水戸へと 光子

・まだ若い空欄の無い手帳です

花ひらく熟年 光子

・遊びたい仕事の虫の朝帰り

長男

・タンスからはみ出したまま年が明け

嫁

・腹の虫日暮れコンビニにぎりめし

孫

学童保育帰路の一年生

・チビのまま脳みそだけが伸び盛り 孫 6歳

「ひまわり」のように

宇野 昭

暑い夏の日ざしの中で、太い茎に支えられて、太陽にまっすぐ顔を向けている燃えるような黄色い大きな「ひまわり」をみていると、いつしかゴッホが描いた「ひまわり」が強烈に印象に残ります。「ひまわり」は朝日がのほりはじめてから夕方沈むまで、何時でも太陽に顔を向けているので、その名前がつけられたといえます。ずいぶん大きな花ですが黄色い花びらのように見えるものは、植物図鑑などによると、じつは一つの花なんだそうです。それがたくさん集まって、一つの花のようになっていくという訳で、菊とかタンポポの花も同類と解釈されております。

私は、花の中ではどの花よりも「ひまわり」が大好きです。そのわけは・・・ひとつひとつの花が寄り添って、ちようどがま口上をとおして一生懸命練成に励み、その成果をボランティア活動で実践している「がま研」の仲間のように、太陽に話しかけているようにも見え、その姿に心を打たれるからです。また、一つ一つの花がばらばらになっていくのは、「ひまわり」の花にはならないので、みんなが力をあわせているような気がするからです。「ひまわり」もたくさん集まっていますので、なかには枯れたり落ちてしまいうものもあります。でも私達ボランティア活動をしている仲間には「ひまわり」の茎のように力強く支えてくれる人たちが大勢いるのです。「ひまわり」の花のように助け合い、そして何時も太陽に顔を向けて、「がま研」の活動をさらに盛り上げていきたいものです。

思いやり 心と心をつなぐ 結ぶ糸



夏目漱石の「彼岸過迄」に大道芸人の長井兵助の話が出てくる。

「すべての中で最も敬太郎の頭を刺激したものは、長井兵助の居合抜と……」
江州伊吹山の麓にいる前足が四つで後足が六つある大蟻の干し固めたのであった」

残念ながらここでのガマは筑波山ではなく伊吹山のガマだ。そして永井兵助ではなく長井兵助だ。岩波書店の漱石文学作品集の長井兵助の注には「先祖代々浅草に住み、居合抜で人寄せをして、家伝の歯磨や陣中膏蓋油を売っていた江戸時代の大道商人。五代目が明治中期まで活躍していた」とある。だが、永井村の兵助と長井兵助と結びつける根拠は薄い。
永井村の兵助についての地元の伝承によれば、1737年ころに生まれて、1753年ころに江戸に出て、1759年ころにガマの油売りを始めたということのようだ。

一七三七年と言えば年号が元文に改まって二年目。元文の前は有名な享保だ。学校では享保の改革を教わるが、忘れてはならないのが享保の飢饉（一七三二年）。享保の飢饉は、天明の飢饉、天保の飢饉と並ぶ江戸時代の三大飢饉の一つで、「徳川実紀」によると九十六万九千人が餓死したとされている。

享保の飢饉の被害は西日本で顕著だったが、全国的に概ね十年に一度程度は飢饉が起きて

永井兵助のイメージ

がま研の末席を汚す身としては永井兵助がどんな人物であったか気にかかる。真実かどうかとは無関係に現在残っている口上は歴史の淘汰を掻い潜ってきたもの。真実の歴史地球を諦めてしまえば怖いものなし。大道商人の口上が空想の世界へと誘う。

高橋 恒

いたようであり、農村の荒廃が進んだ時期であり一揆や村方騒動が増加していた。土浦藩でも一七三〇年、三十一年と洪水の被害が続き、岩間の農民達が江戸表上屋敷に年貢の猶予を求める強訴事件を起こしている。茨城の農村の荒廃を示す数字としては、幕府による国別人口調査がある。享保六年に七十万人を超えていた常陸の国の人口（非生産階級である武士を除く）が、天保までの約百年の間に五十万人を切っていたことからはすばかかなり酷い状況だったのでないだろうか。

商品経済の発達などで危機に瀕していた幕府や諸藩にとって飢饉で年貢が減るのは困る。そこで納税方法が検見法（各年の作柄に応じて年貢を決める）から定免法（平均を基にするため作柄に左右されない）に変更された。不作や凶作でも同額の年貢を納めなければならぬので、下層農民は年貢を納められなくなり、潰れ百姓が続き、年貢を

かけられない手余田、手余畑が増加した。農業経済で成り立っていた幕藩体制の根底を揺さぶる危機だ。

幕府も農村対策を本格化せざるをえず、生産に関する知識を得るために自然科学関係の洋書の一部を解禁したり甘藷の普及を計ったり

した。それが蘭学、天文学、本草学など新しい学問の進歩に繋がり、平賀源内や山村才助（土浦藩士）などの登場する地盤を作った。

そんな時代に兵助は生まれた。永井村の百姓の倅だという。それが江戸へ出たということであれば、普通に考えれば疲弊した農村では食えず故郷を後にしたのだろう。そして江戸には新たな時代が待っていた。新しい時代の空気の中で平賀源内との出会いもあったかもしれない。

学問を離れた空想は広がって行く。

ワッペンができました！

1個 420円 国希望の方は林会長までお申込ください。
刺繍タイプでそのまま洗濯もOK！
鉢巻まで含めて4枚あれば安心です。
(7月30日の練習会に50枚頒布)



編集 後記

ずっと重い(中身も量もの)玉稿に、うれしい悲鳴を上げました。今回掲載できなかった原稿は、次回にまわさせていただきます。

編集 子